

函館市子ども会議

概要・意見書

函館市子ども未来部子ども企画課 2017.8

1 函館市子ども会議の概要

① 函館市子ども会議について

函館市子ども会議は、子どもたち自身が、子どもに関係する施策やまちづくりに関すること等について話し合い、意見発表することで社会参加してもらうことを目的としています。

具体的には、ファシリテーターの進行のもと、大学生等のサポートを受けながら、子どもたち自身が設定するテーマに沿ってグループワークを行い、意見をまとめて市長に報告します。

② 会議日程・開催場所

	日 時		内 容
1 日 目	平成 29 年 8 月 2 日 (水)	9:00 ~12:30	・自己紹介をした後、函館市に対する思いを共有します。 ・子どもたちの意見から、函館市の問題点・改善点をいくつか取り上げて、現状を知るための疑問点を整理します。
2 日 目	平成 29 年 8 月 4 日 (金)	9:00 ~12:30	・1日目に考えた疑問点を市の職員に質問し、説明を聞きます。 ・函館市の現状を知った上で、「自分たちができること」と「函館市にお願いしたいこと」を考えます。
3 日 目	平成 29 年 8 月 9 日 (水)	9:00 ~12:30	・2日目の内容を報告書にまとめ、発表練習を行います。
		12:45 ~13:30	「市長への意見報告会」 市長に向けて説明します。

開催場所：函館アリーナ 1 階多目的会議室 A

③ ファシリテーター

ほんだ まさひろ
本田 真大

北海道教育大学函館校准教授（博士（心理学）、臨床心理士、学校心理士）

④ サポーター

ほんだ やすよ
本田 泰代 函館大学職員（臨床心理士、博士（心理学））

おさない ひろと
長内 宏人 函館大学 4 年

いとう あいり
伊藤 愛理 北海道教育大学函館校 4 年

ほりい はるか
堀井 遥花 北海道教育大学函館校 4 年

よしまつ ともか
吉松 知花 北海道教育大学函館校 4 年

わたなべ ゆう
渡辺 柚 北海道教育大学函館校 4 年

⑤ 参加者

10歳から17歳までの子どもを対象に公募し、10名の子どもが参加しました。

(50音順)

いがらし 五十嵐	そうご 壮吾	青柳小学校 6年
おくだ 奥田	とうこ 等子	凌雲中学校 2年
くどう 工藤	あやか 綾香	赤川中学校 3年
くまがい 熊谷	はると 遥斗	南本通小学校 5年
こばやし 小林	そら 空愛	湯川小学校 6年
こんどう 近藤	あいら 彩梨	深堀中学校 2年
すがわら 菅原	ゆい 侑緒	潮見中学校 2年
ひがしで 東出	りく 理来	北海道教育大学附属函館中学校 1年
まるやま 丸山	ゆな 結菜	赤川中学校 3年
やの 矢野	かなう 叶羽	湯川中学校 3年

⑥ 参考「函館市子ども条例」(平成28年4月1日施行)

この条例は、子どもや子育て家庭の支援に関する理念条例であり、市の責務や保護者、学校、住民、事業者の役割を明らかにするとともに、市の施策の基本となる事項を定めています。

>>第18条(子どもの社会参加)

市は、子どもに関係する施策について子どもが意見を表明できるようにするなど、子どもが社会参加をする機会を設けるよう努めます。

2 函館市子ども会議の開催

私たちが考える、函館市の「ノビシロ」

私たちは函館市に愛着を持っています(「スキ」)。

しかし、生活する中で不便なところや不満を感じることもあります(「イマイチ」)。

函館市子ども会議では、「イマイチ」から函館市の「カダイ」を見出し、私たちの「ネガイ」に向かうために必要なことを考えます。

活動では、「カダイ」に関する現状把握のために、函館市の現状や取り組みとして「シリタイ」ことを挙げて、函館市に質問します。

質問への回答や説明を受けて函館市についてよりよく知ったうえで「ネガイ」を

見直し、「カダイ」と「ネガイ」をつなぐ現実的な内容を「ノビシロ」として函館市長に提出します。

「ノビシロ」には、「私たちにできること」と、「函館市にお願いしたいこと」の両方を含みます。

第1日目 8月2日(水) 9:00~12:30

1 「デアイ」

- ・自己紹介
- ・連想ゲーム…函館で連想する言葉をいかの足のよう書き込む。

2 「カダイ」

- ・函館のスキなところとイマイチなところを書く。
- ・イマイチなところをまとめて「カダイ」とする。

3 「ネガイ」

- ・「カダイ」ごとにグループに分かれ、どうなってほしいか「ネガイ」を書く。

4 「シリタイ」

- ・「カダイ」について、「ネガイ」を意識しながら、市への質問「シリタイ」をまとめる。

第2日目 8月4日(金) 9:00~12:30

5 「分かったこと」

- ・それぞれの「シリタイ」について、市の各部局担当職員から説明を聞き、さらに質問して、「分かったこと」をまとめる。

6 「ネガイ」の見直し

- ・「分かったこと」から、函館市の現状と函館市にできること、できないことを踏まえて自分たちの「ネガイ」を見直す。

7 「ノビシロ」

- ・「分かったこと」を踏まえて、「カダイ」と「ネガイ」をつなぐ「ノビシロ」を考える。
- ・「ノビシロ」は、自分たちができると、市にお願いしたいことの両方を考える。

第3日目 8月9日(水) 9:00~13:30

8 「ツタエタイ」

- ・市長に「ツタエタイ」ことをグループごとに報告書にまとめる。
- ・報告会の発表練習も行う。

9 意見報告会

- ・市長の前で報告会を行う。

※ 市は、子どもたちの意見を踏まえて、『ネガイ』を実現するように努めていく。

3 函館市子ども会議の様子

第1日目

①自己紹介



②連想ゲーム



③グループワーク



④グループワーク



第2日目

①市担当職員からの説明



②市担当職員からの説明



③グループワーク



④グループワーク

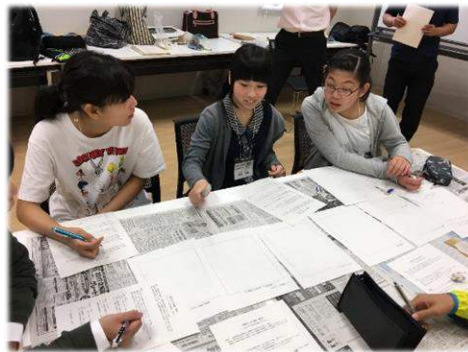


第3日目

①意見書の作成



②意見書の作成



③「市長への意見報告会」



④「市長への意見報告会」



⑤市長へ意見書を渡しました



⑥最後のミーティング



函館市子ども会議

意見書

私たちが考える、函館市の「ノビシロ」

【テーマ】

住み心地

【報告者】

熊谷 遥斗・奥田 峰子・矢野 叶羽

2017年

8月2日(水) 9:00-12:30

8月4日(金) 9:00-12:30

8月9日(水) 9:00-13:30

1. 函館市の「スキ」なところ

☺ おいしい食べ物がたくさんある

↳ ラッキーヒエロ
チキとり弁当
イカ・魚介

☺ 観光地が多い

↳ 五稜郭など歴史的建造物が多く、魅力がたくさんあるから

☺ 季節ごとのイベントが多い

↳ 季節感が感じられ、盛り上がるから

2. 函館市の「カダイ」

① 道が整備されていなく、街灯も暗いので危険なところ

② 色々な人への援助が少ないところ

3. 函館市の現状

- ①
- ・市と町会で設置している街灯がある。
 - ・番号を覚えて電球を替ると、電球をかえてくれる
 - ・自動で明るさを感知して点灯する「自動点灯装置」がある
 - ・街灯の多い所は交通量の多い市街地
少ない所は山間部や灯の少ない所
 - ・費用の差は広い
 - ・夜、イヤホン等を使ったり、スマートフォンを操作しながら歩いたり、一人で歩いたりしない。

- ②
- 色々な種類の援助がある
- でも、みんなが必要としているわけではない
- 人によって受けることのできる援助がちがう
- 人とのつながりを大切にすることが大事
- 緊急通報システムがあることが分かった
- 貸りて、かえすお金があること
- 子どもだけでなく、親も受けることのできる援助があること
- くらしのサポーターというものがあるが、
- 高齢者の人が高齢者を支えていること

4. 私たちの「ネガイ」

- ①
- ・どうすれば安全になるかをみんなに知してほしい
 - ・交通量の少ない山陽部や郊外にも街灯が設置できるように
 - ・安全たいはくも知り、それが常に正常に機能していくこと
 - ・街灯の点検する回数を増やしてほしい！！

②

みんなにもっと援助のことを知ってもらい、サポートし合えるようにする

子どもたちが困っている人のためにできることを考えたい

地域のつながりが深くなってほしい。

様々な援助があることをより多くの人を知り、地域の和を深めて、特に高齢者と支合っていく

5. 函館市の「ノビシロ」

函館市民としての私たちにできること

①

- ・夜間の1人歩きを避ける。
- ・防犯グッズを携帯する。
- ・電球が消えていたら
すぐに市役所か町会へ
連絡する。

②

- 地域の人たちと積極的に関わりをもつようにする
- 地域で行うことができるイベントを考える
- 地域の人々と支え合う
- 困っている人がいたら、自分から声をかけるようにする
- 地域の町会に入るなど地域と
関わりをもつ

函館市にお願いしたいこと

①

・交通量の少ない所にも
街灯をつけてもらう

・街灯が設置されているのに
電気が消えている事があるので
細い所の点検や回数を
増やしてほしい。

②

多くの人に援助の事を知ってもらって
サポートし合えるようにしたい
様々な援助も分かりやすい形で広めてほしい
子どもたちにもできるようなサポートの方法を考えてほしい
(フキサポーターの養成)
学校での認知症サポーターの授業を義務化してほしい
親に対する援助を増やしてほしい。

函館市子ども会議

意見書

私たちが考える、函館市の「ノビシロ」

【テーマ】

遊 び 場

【報告者】

近藤 彩梨

小林 空愛

菅原 侑緒

東出 理来

五十嵐 壮吾

2017年

8月2日(水) 9:00-12:30

8月4日(金) 9:00-12:30

8月9日(水) 9:00-13:30

1. 函館市の「スキ」なところ

- 空がきれいな所 空気が澄んで見えるから
- 夜景がきれいな所 坂の上から見ると特にキレイ。
- 食べ物が豊富 海鮮類がおいしい
- 自然が豊か、 季節によって様々な花が咲き街は彩りと与えている。
- 味がおいしい、 他の地域には、色々な物があるけど味が一番おいしいから！

2. 函館市の「カダイ」

- 近所に安全な遊具がない
- 大型商業施設がなく、買い物できない

3. 函館市の現状

課) 近所に安全な遊具が
ない

- ① 公園を整備する余裕がない。
- ② 遊具が少なく遊ぶ年代も限られてしまう。(小子供の優先)
- ③ 人口が少ない関係で新しく、アスレチックなどを備えた公園をつくることができない。

課) 大型商業施設がなく
買い物できない。

- ① 人口が少ない関係で建ててくれる会社がない。
- ② 大規模な土地が少ない。
- ③ 景観を守るため、建設お際 高さには制限がある。

4. 私たちの「ネガイ」

近所に安全な遊具がない

中学生や高学年でも、小さい子にえんりよしくていい遊び場が欲しい。

交通機関の整った場にアスレチックなどがあるフチャアリーナが欲しい

素材を木などの安全な物にしてアスレチック等をつくらせて欲しい。

3人以上であれば行ける場所

大型商業施設がないため、買い物ができない。

3人以上であれば行ける場所

交通機関が整った場所につくらせて欲しい。

5. 函館市の「ノビシロ」

函館市民としての私たちにできること

① 市の子供達が「遊具がほしい」と思っているという話を市の人知ってもらおう。

函館市内で無理のないはん園でお金を使い、安全な遊具を造る資金を増やす。

② SNSなどで函館をPRすると、もろがると思う人が増え、大型商業施設が増える!

函館市にお願いしたいこと

課題1

遊具などの遊ぶことのできるしき地を確保して欲しい! ということ。

課題2

商業施設を増やすためには、人口を増やす事が必要!

なびツアー企画を増やしたり、有名なものもPRしたりして、函館をアピールして欲しい。

函館市子ども会議

意見書

私たちが考える、函館市の「ノビシロ」

【テーマ】

交通

【報告者】

赤川中学校 3年 丸山 結菜
工藤 綾香

2017年

8月2日(水) 9:00-12:30

8月4日(金) 9:00-12:30

8月9日(水) 9:00-13:30

1. 函館市の「スキ」なところ

- 函館市の好きなところは、現在行われている、はこだて国際民俗芸術祭 & もぐもぐフェスなど、外国との文化交流がさかんなところです。
(赤川中学校3年 丸山 結菜)
- 函館市の好きなところは、観光名所が多く、歴史深いということです。
(赤川中学校3年 工藤 綾香)

2. 函館市の「カダイ」

- ① バスの本数が少ない(中心部以外)
- ② バス・市電の優先席が少ない

3. 函館市の現状

課題①の現状

人口減少にともなう、バスの利用者が平成2年から平成22年にかけての20年間で約3分の1に減少しているということです。

そして、スクールバスは合併した地域(恵山など)では、市で運行しているが、それ以外は町などで運営しているということです。

(スクールバスを運行するには、通学の距離が小学校が4km・中学校が6kmなどの条件があるうえ、料金の問題などにより、実現が難しいということもあります。)

課題②の現状

ノンステップバスの運行台数が157台と全体の64.9%を占めている。その割にノンステップ車両は4台と少ないです。

また、ユニバーサルデザイン仕様~~の~~バスが設備されている。

4. 私たちの「ネガイ」

- ①
- 利用者が多い時間帯にバスの本数を増やしてほしい
 - 最近是小・中学校の統合も増え、学区が広がってきています。なので、スクールバスを市のほうで出してもらいたい

- ②
- もっと優先席を増やしてほしい
(少しずつ増えてきていると思うがまだまだだと思う)
 - 最終的には全てのバスと市電がノンステップ車両になってほしい

5. 函館市の「ノビシロ」

函館市民としての私たちにできること

① ・バス・市電を積極的に利用する

- ・バス・市電の自分が良く使う、路線をなるべく把握しておく。

② バリアフリー化を待っただけでなく、車いすの人がいたら助けてあげるなどの思いやりの気持ちをもって接すること

ローターンにかがバリアフリーについて理解を深めること

函館市にお願いしたいこと

- ①。
 - できる限りで、バスの本数を増やしてほしい
 - スクールバスが合併した(恵山など)地域以外で必要な学校は無いか調査してほしい。

- ②。
 - ベビーカーや車イスの人、小さい子供でも気軽にのれるバスがほしい
 - ユニバーサルデザイン仕様のバス・市電を将来的に全路線に導入してほしい